



【緑内障と認知症】

産業医：本多 融

今回は、緑内障と認知症の関連についてのお話です。視野が徐々に狭くなる眼の病気である緑内障と、脳の機能低下によって起こる認知症は、一見すると関連のない病気のように思われます。しかし、近年の研究では、**緑内障がある人は、ない人に比べて認知症を発症するリスクが1.3~1.5倍高いことが報告されています。**

この背景には、緑内障では網膜の神経細胞が、認知症では脳の神経細胞が徐々に変性していくという共通点があります。また、緑内障によって視野が欠けると、眼から脳へ送られる情報量が減少し、脳の機能低下に影響する可能性も指摘されています。緑内障と認知症の関連については、まだ解明されていない部分も多く、今後のさらなる研究が期待されています。

緑内障と認知症の関連が示されていることから、**緑内障を早期に発見し、適切な治療につなげることは、将来の認知症リスクの低減につながる可能性があると考えられています。**

人間ドックや健康診断で、緑内障が疑われる所見があると言われた場合には、症状がなくても早めに眼科専門医を受診し、精密検査を受けることをお勧めします。

発行責任者 日立健康管理センタ事務長：飯嶋 和秀

Q&A

どのような人が緑内障を発症しやすいのでしょうか？



近視がある方、PC作業やスマホなど、情報機器を使用する時間が長い方、ご家族に緑内障を発症した方がいる方などは要注意です。



健診・保健指導などの健康情報はこちら

日立健康管理センタ HP

<https://www.hitachi.co.jp/hospital/nikkense/>



人間ドックは『日立健康管理センタ』をご利用ください

次回は 10月初旬頃に記事をお届けします